【山崎名誉主宰の俳句】

どこまでも

山崎　聰

西日燦彼の眼の中にいるわたし

楽しきは夏満月の下の丘

双子パンダ誕生し森は秋

だんだんに死後見えてくる十三夜

夕月夜コロナの闇をいつ抜ける

秋の風十二丁目の角で会い

十三夜こえを出さねばさびしくて

丘に行くまいにちの道朴落葉

パリからの荷物が届き寒い朝

どこまでも青空と海冬の景